

切る、切らない 治療法の選択

札幌宮の沢脳神経外科病院
脳神経外科部長 古明地 孝宏

くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤（りゅう）や、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄（きょうさく）の治療には、クリッピング術や頸動脈内膜剥離術に代表される外科的治療（切る治療）のほか、最近では、コイル塞栓（そくせん）術やステント留置術に代表される脳血管内治療（切らない治療）が台頭してきています。脳血管内治療は、開頭したり皮膚を切ったりすることなく、大腿（だいたい）部や肘などの動脈からカテーテルを挿入し、血管の中から脳や脊髄の病気を治す新しい方法です。

切る治療と切らない治療。患者さんの立場になると、切らずにすむ治療法を選択したいと思うのは当然かもしれません。

しかし、それぞれの治療法にはメリットとデメリットがありますから、どちらが良い治療法ということではなく、患者さんの状態によってどちらがより適した治療法なのかを判断すべきなのです。どんな場合でも切らない治療の方が安全という考えは誤りです。切る治療が適した症例もたくさんあります。

当院では、患者さんによって切る治療と切らない治療のどちらが適しているかを慎重に判断し、患者さんにも両者のメリットとデメリットを説明して、治療方針を決めています。瘤の大きさや狭窄の位置、年齢、全身状態、既往歴などさまざまな要素を考慮したうえで、一人一人の患者さんにとって最善の治療法を選択することが何よりも大切なのです。



地下鉄東西線「宮の沢」駅 5番出口より徒歩4分



西区

■診療科目／
脳神経外科・神経内科・
糖尿病内科・リハビリテーション科

■外来診療時間／
月～金曜 9:00～12:00・13:00～17:00 土曜 9:00～12:00

24時間救急対応

脳ドックあり

明日佳グループ
札幌宮の沢脳神経外科病院

札幌市西区西町南20-1-30（旧国道5号沿い）

☎011-664-7111